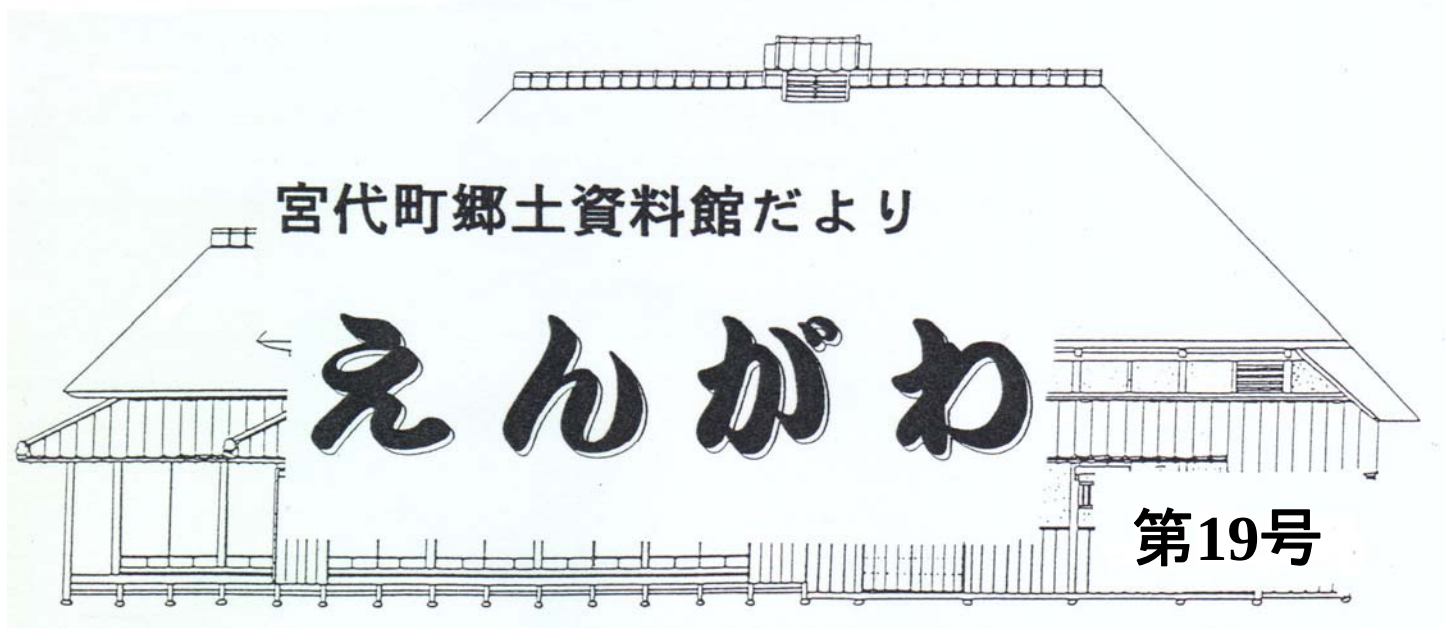




発掘!!出土遺物からのメッセージ

～旧石器時代から江戸時代～

宮代町教育委員会では昭和49年以降41遺跡77ヶ所で発掘調査等を行ってきました。その結果、埼玉県で唯一の4世紀代の鍛冶工房の跡（山崎山遺跡）や埼玉県東部地区で初めて発見された細石器の製作場（逆井遺跡・金原遺跡）、縄文時代早期撚糸文期の集落（前原遺跡）の跡など全県的に注目される遺跡も発見されてきています。その他にも、地藏院遺跡では縄文時代早期条痕文期の集落跡や戦国時代の武将の館跡、金原遺跡では縄文時代後期称名寺期の集落跡、道仏遺跡では古墳時代後期の大集落、姫宮神社遺跡では宮代町唯一の古墳や埴輪、中寺遺跡では戦国時代の武将鈴木雅楽助の屋敷地と推定される建物跡、伝承旗本服部氏屋敷跡では陣屋を区画する堀などが発見され、宮代町の歴史が次第に明らかとなってきました。

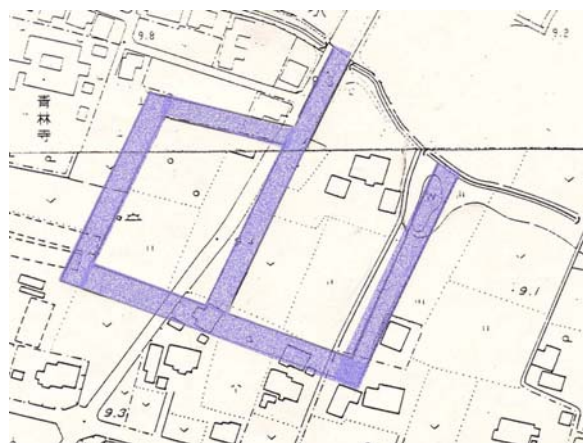
宮代町郷土資料館では、これら貴重な発掘調査の成果を、平成12年8月23日から10月29日にかけて企画展「発掘!! 出土遺物からのメッセージ～旧石器時代から江戸時代～」で展示する予定となっています。宮代町で発掘された縄文土器や石器、埴輪、古銭、陶磁器などの遺物だけでなく、主な遺跡の解説も行う予定です。また、9月17日（日）14時から展示説明会と発掘調査の様子を説明するスライド映写会も行う予定となっていますので是非、郷土資料館に足をお運びください。



幻の旗本陣屋ついに明らかになる！



服部氏陣屋の発掘調査



服部氏陣屋推定縄張り図

現在、県道蓮田杉戸線の西原信号付近で旗本服部氏陣屋跡の発掘調査が行われています。この陣屋は、安土桃山時代の文禄元年に旗本服部権太夫政光が徳川家康の命令により武蔵国太田庄3千石を封じられ、百間の地に陣屋を構えたのが始まりです。その後、江戸時代初期の慶長20年に政光の子政信が後を継ぎましたが、のち、関守として現在の静岡県に配置替えとなり百間の地を離れました。このように江戸時代初期の段階で廃棄された関係から次第と人々から忘れ去られ、わずかに江戸時代後期に編まれた『新編武蔵国風土記』の百間村の項で旗本服部氏の屋敷跡があると伝えているに過ぎませんでした。

この幻の陣屋は、今年2月の県道蓮田杉戸線の拡幅に伴う試掘調査により幻のベールが剥がされ、その一端が明らかとなりました。そして、7月からの発掘調査によって陣屋の南側を画すると推定される幅11メートルの堀や数多くの井戸、建物の柱穴などが発掘されています。今回発掘された堀のすぐ北側では土塁状の高まりが、堀の東側延長線上では堀が残っていたと伝えられています。また、西原信号から郷土資料館に到る道は馬場とも言われています。このような伝承も僅かながらも語り継がれた幻の陣屋を表す証左といえましょう。

出土遺物は陣屋があった桃山時代から江戸時代初期の遺物も出土していますが、瓦質の内耳土鍋や常滑産の甕、板碑などこの陣屋より古い遺物もあり陣屋構築以前戦国武将の館跡があったと考えられます。堀の南側で確認されている幅2mの溝はこの戦国武将の館跡に伴う溝であると推定されます。

陣屋の縄張りは、この付近の明治時代の地籍図（地図）からある程度推定することができます。細長い区画は堀や土塁を表しますので、堀や土塁に囲まれた方形の区画がこの陣屋であると考えられます。また、この区画を2つの割る状況も垣間見れますので2つ曲輪からなる陣屋であったようです。今後の発掘調査によりこの陣屋の様子がなお一層解明されることが期待されます。

「新収蔵品展～20世紀を語るモノ～」

郷土資料館では毎年多くの資料を町民の方々から寄贈いただいております。現在、その数は約1,500点にのぼり、昨年度は140点あまりのご寄贈がありました。

この企画展は「新収蔵品展～20世紀を語るモノ～」と題し、昨年度寄贈をいただいたものの中から40点を選んで展示しています。現代の暮らしの中では見られなくなった生活道具、そして宮代町の近代を物語る和戸キリスト教会のステンドグラスなど、過ぎ行く20世紀を見ていただきたいと思います。ここではその中から数点を紹介します。

昔の台所コーナーから

水桶

毎朝、1日で使う量の水を井戸から汲み、このような水桶や水がめに入れておきました。ここからひしゃくで水を汲み、料理を作ったり、水を飲んだりしました。



昔の茶の間コーナーから

火のし

アイロンの前身です。木綿の着物を洗うときは縫い糸を解いて反物にして張り板に張って干します。その後、この火のしでしわを伸ばしました。火のしには炭を入れて使用しました。



消防コーナーから

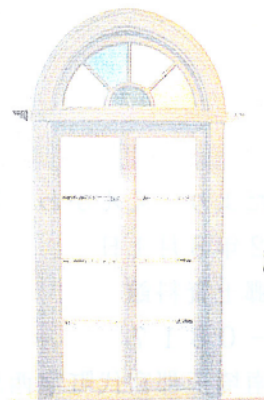
消防信号（看板）

和戸沖の山地区の消防小屋だったところに張ってあったものです。沖の山の消防団で使用されたもので火事の際の半鐘の打ち方が近火、出場、応援、報知、鎮火の別で書かれています。



和戸 教会のステンドグラス

町内にある、県内最古のキリスト教会、和戸キリスト教会の明治15年創建当初のステンドグラスが展示されています。これは昭和30年に再建された教会に用いられ、その建物が今年3月に改築のため取り壊すことになったために郷土資料館に寄贈されたものです。和戸の大工、小菅幸之助による明治時代初期の洋風建築としても注目されるものです。



◇今年の夏は連日猛暑が続いています。梅雨に雨が
多く降ったせいか、幸いに今のところ水不足の
話は無いようです。◇同じ暑さでも、アメリカで
は40℃でも以外に暑くありません。それは、湿
度が日本と比べるとずいぶん低く、空気がカラッ
としているからです。風が吹いていなくても涼し
く、風が吹くと寒いくらいです。◇ヨーロッパの
ドイツあたりでは夏でも30℃になる日はめった
になく、クーラーなどはありません。そのかわり
冬はとても寒いです。また、アフリカのモロッコ
あたりでは、夏の昼間は50℃ぐらいですが、夜
になると気温はぐっと下がって10℃ぐらいにな
りますので、昼と夜の気温差は40℃ぐらいあり
ます。昼間は強い日差しを避けるため、夜は寒さ
を避けるため、このあたりに住んでいる人々は顔
を布でおおい、長そでを着ています。◇このあい
だ、日本で面白い現象が起きました。沖縄より
北海道のほうが、気温が高かったそうです。◇ま
た、真夏になると熱射病や熱中症になり、救急車
で運ばれる人が増えますが、昼間の気温が32℃
以上になったときは、外出をしないほうが良いそ
うです。◇まだまだ暑い日が続きますが、体に気
をつけて夏を乗り切りましょう。

資料寄贈者名簿

平成12年2月から7月までに、下記の皆様が
郷土資料館へ歴史や文化に関する資料をご提供い
ただきました。厚く御礼申し上げます。

(50音順)

折原 一氏	民具、農具(クルリボウ、ビク、 天秤棒、桑カゴ、五升ザル、カ メラ等)
金子和生氏	衣類、民具(しるしばんてん、 前掛け、モンペ、ハサミ箱等)
亀田 氏	瓦
増田正之氏	民具(おかもち)
三羽善次氏	和戸教会ステンドグラス、窓枠
矢部多一氏	養蚕具(蚕棚、エビラ、オオ カゴ、繭カゴ、蚕網等)

《平成12年》4/1～7/31

- 4.13 企画展「神々とのつながり
～社寺総合調査報告展」開始
(～6.12)
- 4.13 町史編集委員会議
- 4.14 文献部会
- 4.21 東小学校見学(聴習)6年生(66名)
- 4.25 百間小学校見学(聴習)6年生(126名)
- 5.11 町史編集委員会議
- 5.27 文化財保護委員会
- 6. 2 学芸員実習 4名(～6.16)
- 6. 8 町史編集委員会議
- 6.14 企画展「くらしの道具 いまむかし
～新収蔵品展」開始
(～8.20)
- 6.16 博物館実習発表展「ちょっと昔の
田んぼの道具」
(～9.4)
- 6.23 文献部会
- 6.24 講座「琵琶のしらべ」(53名)
- 7. 5 茨城県行方郡校長会見学(35名)
- 7. 6 町史編集委員会議
- 7.27 講座「かやぶき民家で昔話を聞く会」
(20名)
- 7.27 「ぐるぐるみやしろバスツアー」見学
- 7.29 講座「土器作り教室」(土器作り)
(41名)

※ 他に民俗調査等を行っています。

宮代町郷土資料館だより えんがわ 第19号
発行日 平成12年8月1日
発行 宮代町郷土資料館
郵便番号 345-0817
住所 埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289番地
電話番号 0480-34-8882
HP <http://www1.sphere.ne.jp/miyasiro/musiam/top.html>